

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	鍼灸スポーツ学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	東医基礎学Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時間	後期 金曜・1限2限	教室名	2校舎501
担 当 教 員	花原 容成	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
東洋医学の基本用語を学ぶ。 東洋医学としての人体の仕組み、働きを学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
1. 定期試験:100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
教科書:『新版 東洋医学概論』 東洋療法学校協会 編 (医道の日本社)						
《授業外における学習方法》						
予習:講義予定部分の教科書の確認。 復習:講義箇所に関する教科書の熟読・ノート整理。 共通:授業内で紹介した古典や専門書の通読。						
《履修に当たっての留意点》						
東洋医学の考え方は西洋医学とは違った考え方ですが「人を診る」という視点では同じものです。 用語・理論など難しいかもしれませんが理解していくことで治療の幅は広がっていきます。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	前期の振り返りを概説できる。	教科書	シラバス確認。 前期の復習。	
		各コマに おける 授業予定	オリエンテーション・前期振り返り			
第2回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	精の病理について説明できる。	教科書	講義予定部分の教科書の 確認。精の生理の復習。	
		各コマに おける 授業予定	精の病理			
第3回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	気の病理について説明できる。	教科書	講義予定部分の教科書の 確認。気の生理の復習。	
		各コマに おける 授業予定	気の病理			
第4回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	血の病理について説明できる。	教科書	講義予定部分の教科書の 確認。血の生理の復習。	
		各コマに おける 授業予定	血の病理			
第5回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	津液の病理について説明できる。	教科書	講義予定部分の教科書の 確認。津液の生理の復習。	
		各コマに おける 授業予定	津液の病理			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	陰の病理について説明できる。	教科書	講義予定部分の教科書の確認。陰陽論の復習。
		各コマにおける授業予定	陰の病理		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	陽の病理について説明できる。	教科書	講義予定部分の教科書の確認。陰陽論の復習。
		各コマにおける授業予定	陽の病理		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	肝の病理について説明できる。	教科書	講義予定部分の教科書の確認、肝の生理の復習。
		各コマにおける授業予定	肝の病理		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	心の病理について説明できる。	教科書	講義予定部分の教科書の確認、心の生理の復習。
		各コマにおける授業予定	心の病理		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	脾の病理について説明できる。	教科書	講義予定部分の教科書の確認、脾の生理の復習。
		各コマにおける授業予定	脾の病理		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	肺の病理について説明できる。	教科書	講義予定部分の教科書の確認、肺の生理の復習。
		各コマにおける授業予定	肺の病理		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	腎の病理について説明できる。	教科書	講義予定部分の教科書の確認、腎の生理の復習。
		各コマにおける授業予定	腎の病理		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	六臓の協調関係について概説できる。	教科書	講義予定部分の教科書の確認。
		各コマにおける授業予定	六臓の協調関係		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	全身の気機について説明できる。	教科書	講義予定部分の教科書の確認。
		各コマにおける授業予定	全身の気機		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	経絡の病理について概説できる。	教科書	講義予定部分の教科書の確認、経絡の復習。
		各コマにおける授業予定	経絡の病理		

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	鍼灸スポーツ学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	東医基礎学Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時間	後期 金曜・1限2限	教室名	2校舎501
担 当 教 員	花原 容成	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
東洋医学の基本用語を学ぶ。 東洋医学としての人体の仕組み、働きを学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
1. 定期試験:100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
教科書:『新版 東洋医学概論』 東洋療法学校協会 編 (医道の日本社)						
《授業外における学習方法》						
予習:講義予定部分の教科書の確認。 復習:講義箇所に関する教科書の熟読・ノート整理。 共通:授業内で紹介した古典や専門書の通読。						
《履修に当たっての留意点》						
東洋医学の考え方は西洋医学とは違った考え方ですが「人を診る」という視点では同じものです。 用語・理論など難しいかもしれませんが理解していくことで治療の幅は広がっていきます。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 16 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	病の原因、成り立ちについて説明できる。	教科書	講義予定部分の教科書の 確認。	
		各コマに おける 授業予定	病因病機			
第 17 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	外感病因について説明できる。	教科書	講義予定部分の教科書の 確認。	
		各コマに おける 授業予定	外感病因			
第 18 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	内傷病因について説明できる。	教科書	講義予定部分の教科書の 確認。	
		各コマに おける 授業予定	内傷病因			
第 19 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	病理産物とその他の要因について説明できる。	教科書	講義予定部分の教科書の 確認。	
		各コマに おける 授業予定	病理産物とその他の要因			
第 20 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	内生五邪について説明できる。	教科書	講義予定部分の教科書の 確認。	
		各コマに おける 授業予定	内生五邪			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第21回	講義形式	授業を通じての到達目標	弁証論治について概説できる。	教科書	講義予定部分の教科書の確認。
		各コマにおける授業予定	弁証論治		
第22回	講義形式	授業を通じての到達目標	八綱弁証について説明できる。	教科書	講義予定部分の教科書の確認。
		各コマにおける授業予定	八綱弁証		
第23回	講義形式	授業を通じての到達目標	気血津液弁証について説明できる。	教科書	講義予定部分の教科書の確認、気・血・津液の復習。
		各コマにおける授業予定	気血津液弁証		
第24回	講義形式	授業を通じての到達目標	臓腑弁証について説明できる。	教科書	講義予定部分の教科書の確認、六臓六腑の復習。
		各コマにおける授業予定	臓腑弁証①		
第25回	講義形式	授業を通じての到達目標	臓腑弁証について説明できる。	教科書	講義予定部分の教科書の確認、六臓六腑の復習。
		各コマにおける授業予定	臓腑弁証②		
第26回	講義形式	授業を通じての到達目標	臓腑弁証について説明できる。	教科書	講義予定部分の教科書の確認、六臓六腑の復習。
		各コマにおける授業予定	臓腑弁証③		
第27回	講義形式	授業を通じての到達目標	経絡弁証について説明できる。	教科書	講義予定部分の教科書の確認、経絡の復習。
		各コマにおける授業予定	経絡弁証		
第28回	講義形式	授業を通じての到達目標	六経弁証について説明できる。	教科書	講義予定部分の教科書の確認。
		各コマにおける授業予定	六経弁証		
第29回	講義形式	授業を通じての到達目標	衛気営血弁証・三焦弁証について説明できる。	教科書	講義予定部分の教科書の確認。
		各コマにおける授業予定	衛気営血弁証・三焦弁証		
第30回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	後期で学んだ東洋医学について説明できる。	教科書	講義予定部分の教科書の確認。
		各コマにおける授業予定	総括		